

# Book Review



## やさしい 治療のしくみとはたらき 歯周組織編

下野正基 著



Reviewer

丸森英史 Hidefumi Marumori  
(横浜市・丸森歯科医院)

A4判, 136頁  
定価(本体4,400円+税)  
医歯薬出版刊



細胞のすがた、ふるまいをイメージして臨床を見ると、見え方が違ってくる。臨床家が基礎研究の話に惹かれるのはそれがあからだろ。この書籍の基になる、2011年9月に出版された『新編 治療の病理』は、永年、日本の歯周病研究の牽引者であった下野正基先生の研究業績の集大成であり、しかも世界の研究を広く紹介されており、これ一冊で歯周組織に関する知識はすべて得られるという名著である。

その内容を歯科衛生士にも伝えるために、「むずかしいことをやさしく、やさしいことを面白く書く」ことに心がけたと言われるだけに、この『やさしい 治療のしくみとはたらき 歯周組織編』は下野正基先生の講演を聴いているような臨場感がある。図もよりいっそうリアルな感じになっている。

歯周病治療における歯科衛生士の役割はこれからますます重要になる。患者さんへの説明や、ブラッシング、SRPの効果や評価を求められる部分も多くなると考えられる。診断は歯科医の仕事であるが、歯科衛生士はその内

容を十分に理解して、患者さんに関わる必要がある。そこで初めて歯科医院としての総合力が発揮されるのであろう。また、スタッフを含めての院内勉強会には、最適な教科書になる。その歯周組織を読む目を確かにする、役立つ情報が満載されている内容である。「歯周組織のしくみと役割」、「歯周病の原因と病態」、「歯周組織の治療」と歯科衛生士にとっても必要な内容を中心にまとめられている。

著者の下野正基先生は、永年、東京歯科大学の病理学講座で研究されてきた方で、臨床と基礎を橋渡しする研究では、その第一人者である。歯科臨床と基礎歯学研究の成果を巧みな解説により結びつけた『治療の病理』が発刊されたのは1988年で、多くの臨床家に愛読されてきた。この著書の源流はここに遡れる。その後、この『歯界展望』誌上でもたびたび臨床家に深い示唆を与え続けてきた研究者である。

読者対象は歯科衛生士との前書きであるが、歯科医にとっても十分役に立つ内容で、歯周病の理解に必要な最新情

報を得るためにも最適な書籍と考える。

まずは、この『やさしい治療のしくみとはたらき 歯周組織編』でアウトラインをつかみ、さらに理解を深めるときに『新編 治療の病理』を参照するのも一つの利用の仕方であろう。目次項目も細かく挙げられ、臨床でよくでる疑問も項目として起こしてあり、疑問を感じたときに辞書のように使える書籍である。一度読んで本棚にしまう本ではなく、身近に置いて、繰り返し読むことで理解を深められる。一見難しそうな言葉にはコラム的に丁寧な解説がついていることも親切な配慮を感じさせる。

歯周病における歯肉上皮の構造やその働きは、下野正基先生のオリジナリティある研究の一部である。さらに歯周組織の再生は、昨今の再生療法が注目される以前から、東京歯科大学の病理学の先生方が解明に取り組んで来られた分野であり、この書籍のなかでも読み応えのある部分である。臨床を見つめる目をより確かなものにするに最適な書籍として推薦したい。